

## 令和3年度ルールメイカー育成プロジェクト実施報告書

<b>学校名</b>	広島県立因島高等学校
------------	------------

### 1 取組のねらい

ルールメイカー育成プロジェクトにおける取組を通して、『因島 GP（卒業までに身に付けさせたい5つの力：思考力・発信力・自己肯定力・行動力・協働する力）』を獲得させ、本校が育てたい生徒像【多様な他者との協働を通して自分自身の強みを見つけ、郷土の明日をつくるため、自分とは価値観の異なる人とでも、勇気をもって共に一歩前に踏み出すことができる生徒】を実現する。（GP→Graduation Policy）

### 2 取組計画・取組内容

- ・違和感のある校則・見直したいと思う校則について、執行部生徒でグループに分かれて協議・発表・全体共有【8月～9月】
- ・見直したい校則の項目を7つに絞り、全校生徒へのアンケートを実施【10月】  
（最も票数が多かったのは『授業中の防寒着着用禁止』で、コロナ禍で換気が必須の今、冬期の教室の寒さで「授業に集中できない」と訴える生徒が多いことがわかり、『授業中の防寒着着用禁止』を見直しテーマに決定⇒協議）
- ・保護者・教職員へのアンケート（『授業中の防寒着の着用について』『学校指定の膝掛けを作ることについて』）を実施【11月】
- ・アンケート結果を受けてさらに協議を重ね、新ルールの提案内容について検討【12月～1月】
- ・学校運営協議会で執行部から取組の報告を行い、校則見直しに関する意見交換を行う【1月】
- ・学校運営協議会の意見交換会で得た新たな視点をもとに再協議
- ・校務運営会議でリーダーが新ルール試行に向けて提案【1月】
- ・新ルール試行期間第1弾【2月8日～2月18日】
- ・教員、生徒対象中間アンケートを実施⇒ルールの見直し・改善
- ・新ルール試行期間第2弾【2月21日～3月18日】  
（\*新年度から、新ルール適用開始予定）

### 3 取組の創意工夫（活動の様子）

- （1）生徒会執行部のメンバーに役割を持たせて、生徒が主体性を持って活動を行えるようにした。
- （2）プロジェクトに関するスケジュールや、ミーティングの流れなどは、基本的にリーダーに考えさせ、事前に教員に提案させるようにした。
- （3）生徒、保護者、教職員にとどまらず、学校運営協議会委員の方々との意見交換会を行い、幅広い視点から自校の校則を見直す機会を設けた。
- （4）全校生徒や教職員への取組周知、校則見直しに主体的に参加する機運を高めるために、執行部のメンバーが各HR教室に活動報告に回ったり、『ルールメイカー新聞』を作成して教室掲示をしたりするなどした。



### 4 成果（成果や教職員の変容等）

他者との対話を通して、校則そのものに社会通念に照らして合理的ではないものが存在することに生徒自身が気づき、それが社会人として生きていく上で真に必要なものかどうかという視点に立って議論を重ね、多くの生徒が取組を通して達成感を感じている。また、生徒が主体で動くからこそ、教職員集団も、いつしか『プロジェクト応援団』のような温かい雰囲気では生徒の活動に対してエールを送るようになった。このプロジェクトを通して、学校として生徒に自己指導能力を身に付けさせるための大きな一歩を踏み出した。

### 5 課題や気づき（今後に向けて等）

- （1）生徒に身に付けさせたい力を明確にしたうえで、生徒の力を信じてやらせてみる勇気、見守るゆとりを教員側が持つことの大切さを痛感している。
- （2）生徒の実態や生徒を取り巻く環境の変化に応じて、絶えず校則を見直していく必要性を感じている。校則の見直しについては、今後、生徒会執行部の動きをフォローし、自分事として捉え行動する生徒を一人でも多く育成する中で取組の充実を図っていく。